



〒700-0807
岡山市北区南方3丁目10番40号
TEL (086) 223-7450
FAX (086) 221-0302
振込 岡山 01250-6-6418
ホームページ www.chosenji.net

長泉寺だより 第351号



現在、日本人のほとんどが「無宗教」だと感じていることだろう。信仰に関する各種の調査を見ても、少なくとも半数以上の日本人が無宗教を自認しているようだ。それは時に「宗教離れ」だと揶揄されるのだが、しかしその内実はどうなのだろうか？

そもそも「宗教」と

は明治期にできた言葉である。西洋文明とともに「Religion」という概念が入ってきて、その和訳が「宗教」となった。仏教語の「宗」と「教」をくっつけたそう。これは

当然、キリスト教などの一神教を意識した訳語でもある。

明治三十三年、明治政府は内務省の社寺局を廃して、神社局と宗教局を設置。かつて「仏門」や「仏道」などと呼

無宗教の国

ひともし

ばれていた仏教は、キリスト教と共に宗教局の管轄下となり、概ねこの頃より仏教は「仏教」と呼称され始めた。近世までの仏教は、当然ながら宗教と認識されていない。

「宗教」という概念自体が無いのである。

他方で「神道」は神社局に属し、「宗教」とは別扱いとなった。

今こそ神社本庁は宗教団体となつてはいるが、神道は今日も「神教」とは呼ばれない。

さて、国民は本当に無宗教なのだろうか？
そもそも仏教や神道が「宗教 (= Religion)

では無い」という方が確ではないか？「宗教」では無いが、神仏への信仰があり、そういう精神文化を現代も生きている——日本とは、多分にそういう国であろう。(龍)

清々しい新年を迎え 一年の安寧を祈る

初薬師 大般若法会

令和7年 正月八日(水) 9時より 於:長泉寺本堂

9時～ 写経書初め/ご挨拶/ご詠歌奉納

10時～ 奉修「大般若波羅蜜多經転読法会」

11時～ 清興「雅楽奉納」小坂俊郎さん、他

詳しくは、別紙ご案内用紙をご覧いただき、どうぞお繰り合わせご参拝下さい。

各家、各人の一年をお守りする「祈願札」のお申込みは、法会前日(1/7)までをお願いします。

霜月大師ご縁日

春秋祭・文化祭

十一月二十一日、毎月恒例の「大師縁日法会」を奉修するとともに、永代供養「樂陽廟」の合同慰霊供「春秋祭」、戦没者精霊供養「安らぎの塔 平和祈願祭」を併修し、さらには本堂において当山「書の会」と「御室流華道教室」による「文化祭」を開催しました。天候もよく多くの方にお参りいただき、にぎやかな一日となりました。関係者皆様には厚く御礼申し上げます。



寺子屋文化講座



朝森要先生

当山檀徒であり、岡山県・市より文化奨励賞を受賞されている郷土史家・朝森要先生をお招きし、十一月一日「第四十八回寺子屋文化講座」を開催しました。

今回は、「黒田官兵衛と備中高松城の水攻め」と題し、室町期に西日本最大の繁華街とも呼ばれた備前福岡との縁があり、姫路城主から福岡城主となった黒田家と、その中でも秀吉に付き天才軍師と呼ばれた黒田孝高（官兵衛）についてお話をいただきました。

ご詠歌巡礼

御詠歌会は、「ご詠歌巡礼」を継続的に行っています。

十月十六日は、源平合戦の那須与一伝承がある真言宗御室派準別格本山・寶嶋寺様（倉敷市連島）へ。寛政十年建造の本堂で本尊十一面観音様に御詠歌を奉納した後、釈子融元御住職より江戸中期に同寺住職を勤めた寂厳和上について詳しくお話をいただきました。また同日、倉敷市笹沖の足高神社もお参りしました。

十一月十九日は、かつて備前国の国府が置かれていたとされる現岡山市中区周辺へ出向き、同地にある備前国総社宮や天台宗浄土寺様（中区湯迫）、さらには同寺に隣接する日吉神社、その近くの大女神社（中区四御神）、頭高山観音堂（中区土田）を参拝し、ご詠歌を奉納させていただきました。

龍門住職の出前講座

当山檀徒の伊山義晴氏（北区佐山）が会長を勤める岡山県難病団体連絡協議会が主催した「難病フォーラム in 岡山 2024 冬」が十二月一日、きらめきプラザ（北区南方）で開かれ、龍門住職が講演しました。

真言宗の教えでもある「実の如く自心を知る」を演題に約一時間、難病患者やその家族、支援者ら約三十名に対して「自分というものの本質を知り、他者との関係性を大切にして、幸せに生きていきたいと思います。」と話しました。



訃報 金田勉総代のご逝去

贈 法仁院歩迦勉齋居士位

当山檀信徒総代・金田勉氏が十月十九日、享年七十六歳でご逝去されました。ここに哀悼の誠を捧げるとともに、これまで金田氏よりいただいたご厚情に対し、深く感謝を申し上げる次第です。

故金田勉氏は、文光堂印刷株式会社代表取締役社長を勤められる中、平成二十四年に当山会計監査役に就任され、平成二十八年より現在までは当山檀信徒総代をお勤め下さいました。

企業経営で培った知識と経験をもとに、檀信徒を代表して当山法人運営を支え、各種の



記念事業にも貢献されました。

また、ご本人もよく出かけられた巡礼では、檀信徒を先導する「長泉寺杖心会」の会長を勤められました。その他に平成二十一年開山五百周年奉讃会、平成三十一年本堂修繕奉讃会等の役員を歴任。住職をよく助け、お寺の発展に寄与されました。

人の和を楽しみ、実に多くの仲間にも囲まれたご生涯でした。若いときは岡山青年会議所（岡山JC）、熟年を迎えては遍路仲間やランニング仲間、またご自身が会長を勤めた武蔵野美術大学岡山OB会で交友を深められました。そして何よりよく仲間とお酒を飲まれました。お寺にも金田さんとの楽しい思い出がいっぱいあります。

どうぞこれからも、御仏の浄土よりお見守り下さい。

合掌

新総代に田口茂氏

この度、これまで会計監査役をお勤めいただいていた田口茂氏（岡山市北区平田）が、当山檀信徒総代にご就任されました。

田口氏は、大型の公共施設、総合病院などにおける給排水・空調・その他各種設備を施工する五洋工業株式会社（岡山市北区新屋敷町）で取締役会長をお勤めされており、企業経営の経験豊かな御方です。大変心強い仲間が増え、住職、総代会メンバーともに喜んでいらっしゃるようです。檀信徒皆様にも、どうぞよろしくお願ひいたします。



ボランティア基金会だより

能登地震被災地救援募金

三二、五八六円

五月末日〜十二月六日

佐藤恭子 白神美保 光岡香里 内藤巧 湯浅章夫 中村久美子 富田英行 原田清子 伊藤圭子 森定奈都実 佐山由美子 片岡陽平 山田紀香 原真由美 原千晶 新和子 長江志満子 谷口悦朗 藤本佳久 ※敬称略

いただいた浄財はRNN人道援助宗教NGOネットワークを通じて、AMDAに寄託されます。ご協力を有り難うございました。 合掌

ナーガ初のレコーディング

合唱団ナーガは今月、お寺の各種事業で用いるため、音楽活動が盛んな臨済宗蔭涼寺様（北区中央町）で初のレコーディングを行いました。

緊張もしましたが、団員にとって大変貴重かつ素晴らしい経験となりました。団員皆様にはお疲れ様でした。

日本清酒の源流を訪ねる旅

河内国大和国寺社巡礼

十一月十六・十七日、当山杖心会は、表題の巡礼を奉修しました（参加二十三名）。

今回の旅は、我が国に古くより続く「神仏習合」に関連して「日本酒」、「清酒」のルーツを訪ねることを目的に、大阪府河内長野市の天野山金剛寺様、さらには奈良県奈良市の菩提山正暦寺様、桜井市の大神神社様などを参拝しました。



天野山金剛寺仁王門 堀智真座主様と

真言宗御室派の大本山である天野山金剛寺は、昭和初期に当山長泉寺の第二十世住職・泉（旧姓）光俊師（昭和三十二年逝去）が入寺した法縁深い寺院です。光俊師は、当時の天野山座主（住職）・曾我部俊雄師（金剛流御詠歌流祖）の後嗣として曾我部姓を継承され、後に同山第七十七世座主となりました。

また、同山前座主で総本山仁和寺第四十七世門跡を勤められた堀智範猥下（平成二十六年逝去）には、長泉寺開山五百周年大法会（平成二十一年）において御導師をお勤め賜りました。

金剛寺は、南北朝時代の武将楠木正成にゆかりがあり、南朝の行宮（天皇の仮住居）が置かれるなど、歴史的に政治の重要拠点でもありました。加えて鎌倉期より僧坊酒「天野」という澄酒が造られてお



天野山金剛寺多宝塔

り、それは太閤秀吉が愛飲するなど時の武将たちに大変な人気を博したと伝わります。

同山境内にそびえる多宝塔（重文）は平安期のもので、大阪府下最古の木造建造物となっており、その他にも現存最古の写本『延喜式神名帳』（国宝）や、『六曲屏風紙本著色日月四季山水図』（国宝）など、数多くの文化財が保存されます。それは比叡山や根来など、戦国期に焼き討ちに合う寺院が多い中で、「天野が飲めなくなると困る」という理由で戦火をすべて免れたからでした。

杖心会一行は、金剛寺到着後まずは先師靈廟へお墓参りをし、般若心経、並びにご詠歌を奉納。続いて本尊大日如来・不動明王・降三世明王（いずれも国宝）を祀る金堂（重文・鎌倉期）でご法楽を捧げ、堀智真座主様よりご法話を賜りました。

その後、天野酒製造元の「西條合資会社」で昼食、並びに酒蔵見学。その日の夕方には奈良市内へ移動し、夜は楽しい親睦会を持ちました。

翌日は早朝より東大寺（今回は特別な許可をいただいて



天野山金剛寺先師靈廟でのご詠歌奉納

真言院様も内拝)、興福寺を参拝した後、今旅の目的の一つである菩提山正暦寺へ参りました。

菩提山真言宗の大本山である正暦寺は、「日本清酒発祥の地」として知られる寺院です。神仏習合が深まった室町期、同山僧侶は山内に祀られる神や天部に供えるため、「菩提泉」という清酒を醸造しました。同酒は、「菩提配」と呼ばれる醸造法で、現在の日本酒造りの原点とも言われています。岡山の人々は「菩提配」の名



菩提山正暦寺本堂にて 大原弘照執行長様と

をしばしば聞くことがあるかと思いますが、それは真庭市勝山にある辻本店（「御前酒」で有名）様が菩提配でお酒造りをされているためでしょう。現在、奈良においても現地の各蔵元が力を合わせ、かつての造り方と同様の醸造法で菩提泉を復刻しています。

一行は正暦寺塔頭の福寿院客殿で同山大原弘照執行長様よりお寺の歴史と菩提泉についてお話を賜った後、本堂前でご法楽をあげさせていただきました。紅葉に染まる境内は大変美しく、心地よい参拝となりました。

昼食後は今旅の最終地である大神神社へ。

古来より神の山として信仰を集める「三輪山」に鎮座する大神神社は、「古社中の古社」、即ち我が国最古の神社と伝承されます。杉の木がご神



大神神社にて

木（三諸杉）で、よく蔵元の軒先につるされている杉玉も、三輪山が発祥です。

ご祭神の大物主神は国家の守護神でもありますが、『日本書紀』には、杜氏の高橋活日命が天皇への献酒する際に「この神酒は我が神酒ならず倭なす大物主の醸みし神酒幾久幾久」と詠んだとあり、酒造りの神としても信仰されています。大物主神のご神力が美酒を造ったことから、現在も全国の酒造者やメーカーが多くお参りされています。

また近世まで大御輪寺とい

う神仏習合の神宮寺があり、その本堂は現在、同社の若宮「大直禰子神社」拜殿となっています。明治期の神仏分離令によって、本尊十一面観音像は近くの聖林寺へ、日光月光両菩薩像は正暦寺へ移されました。鎌倉後期より、真言宗の影響が極めて強い「三輪流神道」が盛んだった同地では、「神道護摩」や「神道灌頂」など、神道と仏教がほぼ完全に習合した儀式も行われていました。

我々一行は、大神神社本殿を参拝した後、同社の神官様より解説をいただき、旧大御輪寺本堂である大直禰子神社へもお参りをしました。

我が国古来の宗教性や文化に触れ、楽しくも学びの多い参拝となりました。ご参加いただいた皆様にはありがとうございました。

前回に続き「神仏習合」のご紹介です。今回は、我が国の仏教受容から平安初期にかけてのお話となります。

仏がカミ(神)を鎮める

さて、我が国へ到来した仏教は、崇仏派の曾我氏が排仏派の物部氏を退けた「丁未の乱」(五八七年)を経て、ついに受容されるにいたりました(前号参照)。その後、先ずは山岳行者らに深く浸透していきます。

古来、我が国ではカミ(神)が降り立つ山(神体山・神奈備)には、神に祈りを捧げるシャーマンのよう修行者がいました。彼らは神に対して稲作農耕の無事を祈願し、あるいは死霊(祖霊)を鎮めるといった役割を担っていたのですが、当然ながら自然はなか

か思い通りになりません。不作もあれば疫病の流行もあるわけです。そこに登場したのが仏教でした。山岳行者たちは神前でお経を読み、仏の力をもって荒ぶる神を鎮めようとした。

神宮寺の誕生

神体山で山岳行者が仏教儀礼を営むようになると、そこに寺院が建立されました。大和国三輪山の大神寺(後の大御輪寺)や山科国の高雄神願寺(後の神護寺)などが有名ですが、それら神を鎮めるための寺院を「神宮寺」と呼びます。今日、我が国の総氏神とされる伊勢神宮にさえ、天平神護二年(七六六)に伊勢大神宮寺が創建されています。また、氏族社会を形成していた当時、地縁・血縁共同体(氏族・豪族)はそれぞれに



大神神社・大直禰子神社拝殿(旧大御輪寺本堂)

氏神(産土神)を祀っていたわけですが、山岳行者が神を仏儀によつて鎮めると同時に、彼らも仏の力を求めるようになりました。曾我氏による法興寺、巨勢氏による巨勢寺のように、氏族、豪族が住む地には、古墳に代わって「氏寺」が次々と建てられていきました。

天皇の仏教帰依

六世紀以来、我が国で受容された仏教は、上記のように「仏が神を守護する」という

形で浸透していきました。同時に天皇も仏教への帰依を深めていきます。中でも特に聖武天皇(七〇一〜七五六)が有名でしょう。

平城京において疫病が相次いだことを嘆かれた聖武帝は、仏教による護国祈願を進められました。護国經典である『金光明経』や『法華経』の法力を広げるため、全国に国分寺(金光明四天王護国寺)、国分尼寺(法華滅罪寺)を建て、さらに京内では東大寺(金光明四天王護国之寺)大仏造立を指示されます。

とはいえ、前代未聞の巨像建立には莫大な費用が必要です。そこで帝は、山岳信仰において絶大な力を誇り、民衆からも信仰を集めていた行基を大僧正に任命し、庶民をも率いさせて大仏造立に着手。聖武帝のご意志は相当に強い

ものでした。

八幡神の誕生

一方でその頃、九州豊前国において宇佐八幡神が力を誇るようになっていました。

九州北部には新羅系の渡来人が多く住んでおり、中でも宇佐地域には地元豪族・宇佐氏に代わって秦氏系の渡来人・辛嶋氏が台頭し、新羅国神を奉祀するところとなっていきました。当時の新羅は仏教、道教が根付いており、同国神もそれらが融合した神であります。実はこれが八幡神の源流ではないか？という研究もあるのですが、だとすると八幡神はその原初より神仏習合の神ということになります。そのような宇佐地域に、大和国において三輪山の神を奉祀する社家人・大神比義がやってきました。大神氏は辛嶋

氏に対する力を強め、八幡神にも三輪明神の影響が加わります。以降、八幡神は応神天皇霊とも称されるようになります。

そこへさらに法蓮という巫僧（仏教によって神祇を鎮める僧）が現れます。呪力に優れていた法蓮は、八幡神の神宮寺を建立するなど活躍し、宇佐独自の神仏習合はさらに威力を増すのでした。

仏を守護する神の誕生

そのような宇佐八幡神に対して、平城京での大仏造立を完遂させたい聖武帝が援助を求めるとは必然でした。

天平勝宝元年（七四九）、宇佐八幡神は大仏を拝すために平城京へやって来ます。朝廷は、厳重なる奉送儀（神の移動）を行い、盛大に歓迎式典を開催。式にはその時すでに



聖武天皇

退位をされていた聖武上皇のほか、孝謙天皇、光明皇太后らも臨席され、読経僧は実に五千人という一大仏事となりました。そもそも仏教經典では、インドの神々は仏を守護する存在（護法善神）として登場します。宇佐八幡神が大仏に拝したこの出来事は、我が国における「仏を守護する神」の誕生とも言えるでしょう。ちなみに宇佐八幡神は、現在でも東大寺大仏殿より東方の「手向山八幡宮」に鎮座されています。

以来、神々は仏を守護する「鎮守」として各寺院へ勧請されるようになりました。

本地垂迹説

平安期に入ると、先に紹介したような神仏習合を僧侶が理論化していきます。それは、「神とは仏が姿を変えて現れたもの（権現）」であり、「本地の仏が神として垂迹する」という考えに至ります。これを「本地垂迹説」と言います。八幡神が「八幡大菩薩」とも呼ばれるのはそのためで、時代がさらに下ると紀州の「那智の滝」（那智神社のご神体）は如意輪観音菩薩（青岸渡寺本尊）の垂迹だとか、伊勢内宮の祭神（天照大神）は胎藏大日如来、外宮の祭神（豊受大神）は金剛界大日如来の垂迹だというふうに、神仏習合思想はさらなる展開を見せていくのです。

（次号へと続く）

参照：『神奈備大神三輪明神』三輪山文化研究会、『八幡信仰』中野幡能・『八幡神と神仏習合』遠日典

毎月21日奉修

大師塔婆供養

毎月二十一日の「大師縁日法会」にて

檀信徒各家精霊に回向を捧げるため

塔婆供養を一年にわたって奉修しています

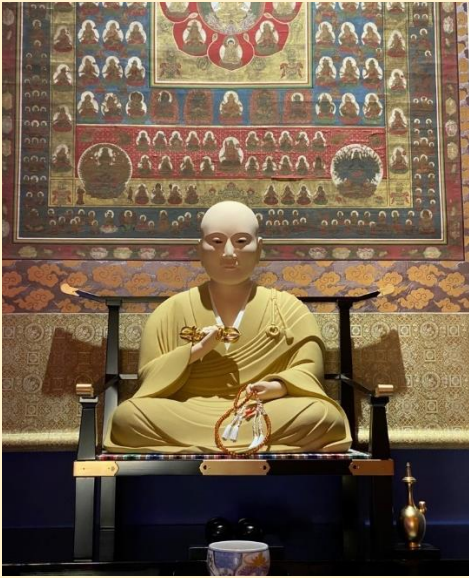
ご供養を希望される御方は

「大師縁日 年間塔婆供養申込書」に

必要事項をお書きの上お申し込みください

◆ 経木塔婆 一基 二〇〇円

※ 一年間 二、四〇〇円



しま こうぼう まんとう え 終い弘法 萬燈会

お大師様の御前にて 一年間の反省と感謝を捧げ
心明るく新年を迎えましょう

12月21日(土) 午後5時~6時頃

於：磨屋町 金剛寺駐車場

- ◆ 一年の反省(懺悔) 流水回向
一年の反省、懺悔の内容を書いた紙を水に流します
奉納料一千元(紙札付)または五千元(木札付)
- ◆ 一年の感謝のともじび 献灯
奉納料五百円也 カップローソク一基

主催 岡山市弘法大師降誕会

あたたかいお接待を
用意しております
どうぞお参り下さい



於 鐘楼門

大晦日二十三時四十分頃

除夜の鐘

将棋クラブ

毎月一回 客殿で開催中
参加無料

■79回目

12月14日(土) 13:30-16:00

■80回目

1月26日(日) 13:30-16:00

いつも集まったメンバーで楽しくやっています。どなたでもお気軽にご参加ください。



長泉寺
寺子屋
文化講座

Vol. 49

1月21日(火)19時~20時半 於 長泉寺本堂

参加無料・要事前予約 TEL:086-223-7450

参加ご希望の方は、事前にお電話でお申込み下さい。

「池田綱政の文化的事績」

講師：浅利尚民 先生 就実大学人文科学部教授

長泉寺の公式ホームページをぜひご活用下さい

長泉寺 南方

検索

住職のブログ、月行事日程、文化教室のご案内など長泉寺の様々な情報がご覧になれます